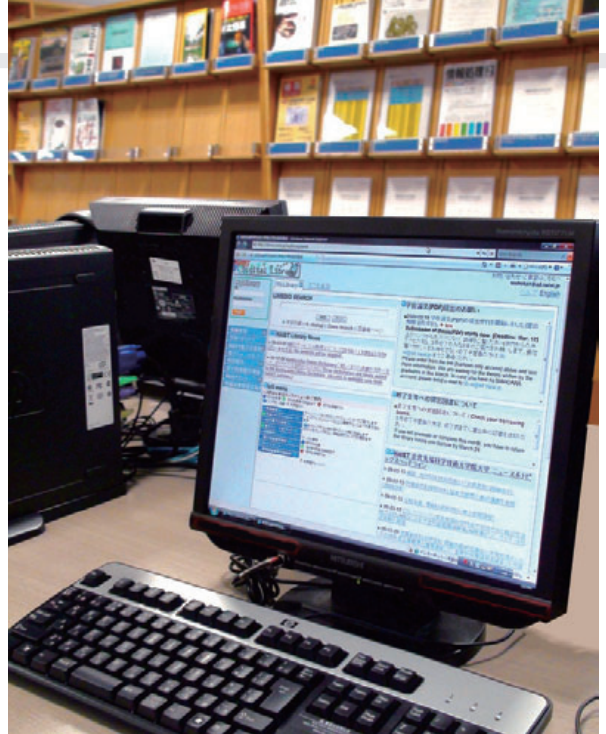


# 附属図書館(電子図書館)

University Library (Digital Library)

## 利用者本位の検索システム

本学附属図書館は電子図書館として構成されています。これにより、先端科学技術に関する教育・学術研究活動を支援する上で必要な情報や知識を迅速かつ正確に取得できるようになっています。図書・雑誌は冊子体ではなくデジタル化して蓄積されており、曼陀羅ネットワークを介してどこにいても自由に利用できるようになっています。また、冊子体メディアだけでなく、講義ビデオをはじめとする動画像データを含むマルチメディア情報を統合化したアーカイブ機能を有しています。



## 電子図書館の特色

### ● MyLibrary機能

利用者一人一人の利用形態にあわせて、専用のページを構築できるようになります。これにより、定期的に参照しているコンテンツ、自分自身の検索履歴等の管理、オンラインコンテンツの管理が行えるようになります。また、電子図書館内に格納された資料とオンラインジャーナルを横断的かつ効率的に検索・管理ができるようになります。



### ● 学位論文などの学内生産物のデータベース化

学内で生産されるテクニカルレポート、科学研究費補助金研究成果報告書、学位論文などの研究成果物や講演会、授業内容などを、デジタル情報として図書館で一元的に収集し、保存、管理及び提供しています。

### ● 授業アーカイブ事業

授業の映像と資料をデータベース化して、学内及び学外へ公開しています。

### ● メディアセンター機能

資料の種別(図書、雑誌、音声、映像

等)を利用者に意識させることなく提供しています。

### ● 24時間図書館

研究室や宿舎にしながら、ネットワークを介して24時間利用できます。

### ● 本文情報を含めた高度な情報検索

従来の表題・著者名による検索に加え、本文中の主要単語をキーワードとした全文検索等、きめ細かな検索サービスを実現しています。

### ● リアルタイムでの利用

ネットワークを介して、時間的な遅延なく、デジタル資料を入手できます。

### ● 同時利用の実現

デジタル資料は貸出中の心配がなく、複数利用者が同時に閲覧できます。

## 電子図書館研究開発室がめざす次世代電子図書館機能

### 1 電子司書機能(平成21年度以降開発予定)

MyLibrary内に格納される資料の参照履歴や検索履歴を用いて、電子図書館システムが利用者の興味に応じた資料を提示し、より効果的な資料閲覧ができるようになります。これは、利用者専用の司書がいるのと同じ機能を提供することになります。

### 2 知識集約センター機能(平成22年度以降開発予定)

論文や資料、それらを読んだ際に作成したメモ、プログラム、実験結果など利用者が教育・研究活動を通して生成した情報とその行動履歴から「知識・知恵」を体系化し管理・提示する機能を提供します。先端的な研究者が集結するNAISTにおいて新しい知識・知恵を集約・体系化することで、世界へ向けた知識発信基地となることをめざします。

※電子図書館研究開発室は、電子図書館の基盤技術の研究と開発を行っています。